

14) 進行性筋ジストロフィー症児(者)病棟 に於ける学童保育について その遊びの研究

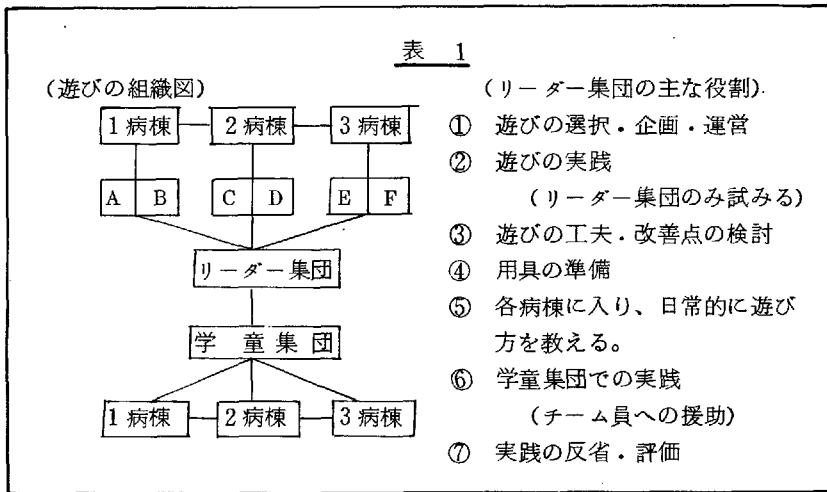
国立療養所八雲病院

久保育子 午角美知子
近藤幸子

進行性筋ジストロフィー症児にとって、身体的なハンディキャップから体を動かす遊びが少ない傾向にある。今回は集団の中で体育的な遊びを通してリーダーの育成をはかりながら遊びに必要な知識や能力を培い彼ら自身に合った遊びの工夫等がみいだせたので実践例を示し報告する。

対象児は小学生23名(当院では3コ病棟に分散されて配置している。)

実施時間は日曜・祭日を利用。場所は隣設の養護学校体育館を借用した。遊びの指導については特にリーダー集団の果す役割を明らかにし、集団遊びに必要な規律を認識させ、リーダーの資質を高めることに指導の重点をおいた。また、リーダー集団が日常的に3コ病棟に渡り他の学童に遊び方を広めていけるよう配慮した。



リーダーは3コ病棟から2名ずつ選出。遊びの組織の仕方。リーダー集団の果す役割は表1に示す通りである。実践例1は当初コートの広さを $9m \times 9m$ あるいは $5.5m \times 4m$ であったがボールに触れる率を多くするために改善した。ゴールの大きさも得点しやすいように大きくした。方法。ルールでは、独歩児の動く範囲を小さくすることで車椅子のプレイを容易にした。

実践例1 (ホッケーの場合)

	考案と工夫内容
人数	1チーム5名, 審判2名
コート の 広さ ・ 配置 図	
方法・ ルール	<p>時間 15分 5分 15分 10分 競技 休み 競技</p> <p>前半 後半</p> <p>①センターサークルで主審の落したボールからボールを奪い取り相手チームのゴールにボールを入れると得点になる。</p> <p>②独歩児のみ相手コートには入らない。</p> <p>③サイドライン外に出たボールは独歩児が入れる。</p>
用具	テニスボール, バドミントンのラケット

実践例2 (野球の場合)

	考案と工夫内容
人数	1チーム7名, 審判3名
コート の 広さ ・ 配置 図	
方法・ ルール	<p>①一試合5回戦とする。</p> <p>②ピッチャーは独歩児の車椅子児。</p> <p>③キャッチャーは独歩児。</p> <p>④ファースト・セカンド・サードは車椅子児。</p> <p>⑤外野は各一・二塁間, ニ・三塁間の守備とし独歩児が行う。</p> <p>⑥車椅子のランナーは独歩児が押しつけ、次のベースの半分までリードさせて自分で行ってよい。</p>
用具	テニスボール, グローブのかわりに野球帽子の取出し網

実践例3 (風船バレーボールの場合)

	考案と工夫内容
人数	1チーム6名, 審判4名
コート の 広さ ・ 配置 図	
方法・ ルール	<p>①6人制バレーボールに準ずる。</p> <p>②ワンセット10点とし、3セット行う。</p> <p>③独歩児は拳手、車椅子児はバドミントンのラケットを使用する。</p> <p>④サーブは、パスをして3回以内には相手チームに入れなければならぬ。</p> <p>⑤ボールを相手チームに返す前は4回以内。</p>
用具	ゴム風船, バドミントンのラケット

実践例2では、ボールの飛ぶ範囲に合わせて人数やコート of 広さを考えた。ルールは独歩児・車椅子の身体的機能に合わせた守備位置・ランナーの進め方とした。用具はボールを受けやすくするためである。

実践例3のコートの広さは、風船ボールが相手チームに確実に返すことができるようにと狭くした。以上三通りの実践例をまとめると、①ゲーム展開におもしろさを増す工夫がなされた。②独歩児・車椅子のそれぞれの身体的な条件に合わせた工夫であった。③小学生にわかりやすい方法・ルールであった。④用具の工夫では大きな変化はなく既製の物を使用することでとどまり、さらに改善工夫が必要である。⑤遊び方そのものを知るばかりではなく、一般的なスポーツの理解をも深める必要がある。等である。

このような実践活動の結果、リーダー集団に次のような良い状況が現われた。

- ①自分たちで意見をだしあい、計画・実行したことで責任を持って役割を果たすことができた。
- ②身体的な条件を考える能力を養いお互い助けあい協力して公平にできる遊びへと発展させた。

③リーダーシップを日常的に発揮して生き生きとした活動にとりくめた。

等である。

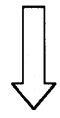
最後に学童保育がもたらした効果として表2に示す通り、彼ら自身が望んでいる方向へと遊びが変化してきていること等である。

表 2

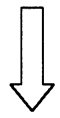
遊び・学童保育のアンケート結果

主な遊びの状況変化				
	玩具類	ゲーム類	戸外・散歩	体育的遊び
昨年	50 %	20 %	10 %	10 %
今年	45.5 %	13.6 %	0 %	40.9 %
将来	13.6 %	13.6 %	22.7 %	50 %
学童保育への関心度				
	あった方がよい	なくてもよい	どちらともいえない	
昨年	67.0 %	3.0 %	21.0 %	
今年・将来	91.0 %	4.5 %	4.5 %	

私達は一つの遊びを集団のなかで、体系的に組織していくことを子供たちの充実した姿のなかからも観られた。今後も一貫した学童保育の確立めざし、新しい遊びの発見等に努力したいと考える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



進行性筋ジストロフィー症児にとって、身体的なハンディキャップから体を動かす遊びが少ない傾向にある。今回は集団の中で体育的な遊びを通してリーダーの育成をはかりながら遊びに必要な知識や能力を培い彼ら自身に合った遊びの工夫等がみいだせたので実践例を示し報告する。